

## 菊の園に伝わる言葉 ～もうひとつの教育目標～

副校長

細井宏一

平成29年度がスタートして、1週間たちました。

4月11日（火）には、入学式を挙行了しました。一年生は校長先生の「入学を許可します」という言葉に、歌「一年生になったら」では、一年生と2～6年生が掛け合いで歌います。一年生が学校にくるのを楽しみに待っていた気持ちが伝わるような、上級生のすばらしい歌声、一年生の合唱を支えていて、全校ですばらしい歌声が響きました。6年生による楽しいアトラクションもとてもよかったです。新入生の皆さんもとてもうれしそうです。

新入生を迎え、児童数576名での学校生活がスタートしました。

4月中旬となり、生活団活動、委員会活動が始まっています。クラブ活動もブロック集会も間もなく始まります。今、休み時間になると、6年生数名が先生と話をしている様子を校内のあちらこちらで見かけます。これは次の生活団活動や委員会活動などなどについて、リーダーとなる6年生が各担当の先生と事前の打ち合わせをしているようです。6年生の生活団活動への意欲はたいへんすばらしく、頼もしく感じます。

そこで、今回は、本校に伝わる「もう一つの教育目標」というべき言葉を紹介しましょう。これは子供たちが皆持っている菊の子手帳に載っているものです。

<本校に伝わる言葉：菊の子手帳>

きくの園の子どもです。

ねばり強くがんばります。

ほねみおしませます。

日本をになう子どもです。

強い体をきたえます。

はげましあって進みます。

世界に伸びる子どもです。

のぞみを高くかけます

ひろい心でまなびます。

「ほねみおしませ…」などという言葉は、今の時代ではあまり使わないので、少しビククリするかもしれませんが、本校の教育理念をととてもわかりやすく示している言葉だなと感じます。

いつから使われている言葉なのか、調べますと、昭和38年（1963年）に本校の「わたしたちの生活目標」で制定された言葉であることがわかりました。ですから今から50年以上前から、本校で大切にされて、伝わっている言葉であるということです。ここで、驚くことは、既に、「世界に伸びる…」とあるように、国際教育についての目標が掲げられていることです。

先輩の先生方の先見性に、尊敬の念を覚えます。本校はグローバル社会に生きる力を育成する教育を展開したいと考えますが、小学校では、まずは人間形成のベースとなる優しさとたくましさのある豊かな心技体の育成が重要であると考えています。そして、その上に「英語力」「異文化間教育」「グローバルな視野の育成」であると思います。

この言葉にある、菊の園の一員としてのいい意味での誇り（おごり・自慢・優越感ではなく…）、愛校心、勤労の精神、仲間と共に共生をしていくこと、たくましさ、希望や目標をもって前向きに行くこと、日本から世界に視野を広くもって考え、思いやりや優しさのある広い心、これらの資質や能力をしっかり育ていけるよう、安心・安全で充実した教育活動を推進していきたいと思っています。本年度もどうぞよろしくお願いたします。